

水面、それは空と海の境界線。

一枚のうすいまくのようなもので、
ゆらゆらとしていて、決まった形はない。

ぼくたちがくらすのは、空の世界。

水面をとおりぬけると、あっという間に魚たちがくらす海の世界。

まるで魔法のとびらのよう。

Alice kan

水面をくぐりぬけると、すべてがかわる。

からだをつつみこむ水のはだざわり、
ずっと聞こえる、ぴちぴちぱちぱちという音。
どこまでも広がる青い色。

空の世界では見えなかった太陽の光が、
すじとなってあらわれ、
やがて、海の深みへと消えていく。

Alice kan

波がなく、見晴らしのよい日。
なんて気持ちのよい海びより。
海底から見上げると、水面の向こうの太陽がまぶしい。
タカサゴのなかまたちが、
まるで空を泳いでいるようだった。

Alice Kan



Alicekkan

大きな大きなザトウクジラでも、
小さな子どもには危険がいっぱい。
うまく息つきができなければ、死んでしまうことだってある。
まだ息が長くつづかない子どもにも、
水面に近い、あさくおだやかな海はとても安心できる場所。



おだやかで美しい水面。

でも海の生きものにとっては、巨大なかべにもなる。

太陽の光を求めて上へ上へと成長するサンゴも、

水面をこえては生きていけない。

水面のすぐ下に、うっすら海をはきんで

アオサンゴの群落が頭をそろえていた。

Aiicekan